

日彫会報

公益社団法人
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室 TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557
<http://www.niccho.com/> email: webmaster@niccho.com

上野の杜へ

リニューアル東京都美術館での開催に向けて



改修工事完了間近の東京都美術館
(2011年12月撮影)

理事長就任のご挨拶

日本彫刻会理事長

市村 緑 郎



この度、平成二十四年度から二十五年度にわたる二年間、理事長との御指名をいただき、非力ではありますが、その大役を仰せつかることとなりました。謹んで会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

日彫会は六十五年の歴史を織り成して今日に至ります。当会が数回の改称を経、社団法人となり、三十七回展から公益社団法人となった四十一回展までの五年間過ごした六本木をあとにし、新装なった上野の東京都美術館に於いて開催することとなりました。会期も六月から四月となり、大変忙しい日々を迎えることとなります。

あまつさえ、科学文明の限界を露呈する困難に遭遇した昨年、東日本大震災続く原発事故の余波はあまりにも大きく、今日ほど自然との共創による生きるとは何か、そこでの人間存在を問われているときはありません。この様な状況にありながらもいのち輝く彫刻芸術の有りようは：先達の御苦勞を思うにつけ、その重責に身の引き締まる思いです。

申し上げるまでもなく、展覧会は作品の発表の場であり、研究研鑽、切磋琢磨、文化の発信振興、そして若者の育つ場でもあります。不易と流行を深く考え、文化の公益活性化のために内外の彫刻芸術に関する交流及び調査、研究会、講演会の企画、出版物、広報活動等に一層の充実を図っていきたく願っております。

念願の公益社団法人となって二年目であり、さらに奇しくも文明の因果を身に纏った私たちが危難に遭遇した今こそ、各々の作品が生き生きと美しく光り輝くものとなる展示がなされるよう努力していきたく存じます。

幸いに、神戸委員長、他各主任、委員の方々に人材を得て二年間の任に当たらせていただきます。

会員諸賢の御協力を切にお願い申し上げます、就任の御挨拶といたします。

委員長就任のご挨拶

日本彫刻会委員長

神戸 峰 男



この度、日本彫刻会の委員長をおおせつかりました。もとより凡にして鈍を自認する私ではありますが、市村緑郎新理事長のご指導のもと、会員並びに関係各位、さらには委員会の皆様のご支援を賜りながら、その職責を果してまいりたいと思っております。

さて、一昨年は日本彫刻会の重要懸念でありました公益社団法人への移行も、歴代役員各位のご尽力のもと無事に果たすことができ、更に能島征二前理事長が掲げられた五つの提言をもつて、公益性をより高める方向が示されるなど、その一歩を踏み出す年となりました。又、今年度より日彫展会場を国立新美術館から、改装なった東京都美術館に移すと云う記念すべき年を迎えました。このことは単に古巣に帰ると云うことだけではなく、日本彫刻会の新たな出発と位置付けることで、更なる発展に至る一里塚となればと祈念する次第で御座ります。

最後になりましたが、昨年発生した東日本大震災を始めとする数々の災害に見舞われた地域の方々に心より御見舞を申し上げます。この復興が延々とする中、従来良しとしてきた価値観とその有りようを問い直さねばならぬ時代を迎えております。今期、拝命賜りました委員一同は、本会の創立の精神と目的に資するため、その任に全力で当らせていただく所存であります。皆様方のご指導とご協力を切にお願い申し上げます、委員長就任の御挨拶とさせていただきます。

第42回日彫展 上野の杜への回帰 — 東京都美術館での開催 —

東京都美術館 リニューアルオープン

東京都美術館 リニューアルオープン



改修イメージ (東京都美術館提供)

平成22年に公益社団法人日本彫刻会となりました本会の歴史は、昭和22年に朝倉文夫・加藤顕清・本郷新らによって結成された日本彫刻家連盟にまで遡ることができます。昭和24年、第1回日本彫刻家連盟展が東京都美術館で開催されてから、実に60年もの間、上野の杜にて彫刻表現を追究した展覧会を重ねて参りました。

東京都美術館の全面改修と国立新美術館の開催に合わせて、平成19年の第37回日彫展から開催の地を六本木に移しましたが、この度の東京都美術館のリニューアルオープンに際して、第42回日彫展は上野の杜へ回帰し、新たな出発を迎えます。

今回の改修により全面的に設備が更新され、東京都美術館はより良い文化発信拠点となります。

照明器具や空調設備も改善されて、展示環境の向上が図られています。また、展示環境だけではなく、安全でスムーズな作品搬入経路の確保やトラックバースの増設により、搬入出口の改善もなされました。レストランの増設やカフェの新設、ミュージアムショップの拡張がなされ、エレベーターやエスカレーターの増設など、設備にはユニバーサルデザインが採用され、より多くの人々が利用しやすい空間となっています。

東京国立博物館や国立西洋美術館なども含めて、上野は質の高い芸術文化に触れることのできる地であり、周辺施設とともに来館者の増加が期待できます。



アクセスご案内

JR 上野駅公園口より徒歩7分
東京メトロ銀座線・日比谷線
上野駅7番出口より徒歩7分
京成電鉄上野駅より徒歩10分

《第42回日彫展開催要項》

名称	第42回日彫展
主催	公益社団法人 日本彫刻会
会場	東京都美術館 ギャラリーA・B・C
会期	平成24年4月19日(木)～4月30日(月・祝) 午前9時30分～午後5時30分 (入場5時まで)
最終日	午後2時閉会(入場1時30分まで)
入場料	一般入場料 700円 20名以上 一人400円 学生入場料(中・高・大生) 400円 20名以上 一人300円 小学生入場料 一人100円 身体障がい者手帳をお持ちの方と付き添い2名まで入場無料 70歳以上の方入場無料
搬入	東京都美術館 地下3階 荷受広場(日彫展受付) 4月7日(土) 午前10時30分～午後4時 4月8日(日) 午前10時～午後2時 ※ 出品点数 1人1点 高さ 230cm以内 幅、奥行き各150cm以内 重量 1000kg以内
搬出	搬出場所と同じ 4月30日(月) 午後2時30分～午後5時30分 5月1日(火) 午前10時～正午
選外搬出	4月17日(火) 午前10時～午後2時
出品手数料	一般応募者 1万2千円 (図録一冊贈呈)
鑑・審査 入選発表	4月12日(木) 4月13日(金) 午後4時日彫会ホームページにて発表

第42回日彫展 開催日程表予定

日付	工程	バックヤード	その他
4月1日	日		
4月6日	金	事務所引越し	
4月7日	土	搬入(業者)、写真撮影	A、B、C
4月8日	日	搬入(個人)、写真撮影	A、B、C
4月9日	月	写真撮影、鑑審査準備	A、B、C
4月10日	火	鑑審査準備	A、B、C
4月11日	水		A、B、C
4月12日	木	鑑審査	A、B、C
4月13日	金	理事会	A、B、C
4月14日	土	西望賞審査	A、B、C
4月15日	日	陳列準備	A(午前のみ)、B、C
4月16日	月	休み(都美術館休館日)	
4月17日	火	陳列、選外搬出	B、C(午前のみ)
4月18日	水	陳列(予備)	
4月19日	木	オープン	
4月20日	金		
4月21日	土	彫刻研究会・表彰式及びオープニングパーティ	東京都美術館 3、4会期 (休館日無し)
4月22日	日		
4月29日	日		
4月30日	月	クローズ、搬出	A(午後のみ)
5月1日	火	搬出	A
5月2日	水	事務所引越し	A
5月3日	木		
5月27日	日		

審査員
市村緑郎 能島征二 神戸峰男
龜谷政代司 寒河江淳二 西村祐一
堀尾秀樹 村山 哲 山瀬晋吾
吉村政美 川崎義昭 島田見根夫
田中厚好 寺山三佳 吉居寛子
(以上15名)

第42回日彫展・会友推挙選考委員
龜谷政代司 西村祐一 山瀬晋吾
(以上3名)

表彰式及びオープニングパーティ
日時 4月21日(土)午後5時～(受付午後4時15分)
場所 東天紅上野本店
(東京都台東区池之端1-4-33)

企画 彫刻研究会 4月21日(土)
午後1時～午後2時半

ギャラリートーク
期間中午後2時から
4月21日(土)、4月30日(月)を除く
タッチター・鑑賞教室

第42回日彫北陸展
会期 5月3日(木)～5月8日(火)
会場 富山県民会館美術館
(富山県富山市新総曲輪4-18)

第42回日彫東海展
会期 5月15日(火)～5月20日(日)
会場 愛知芸術文化センター愛知県美術館
(愛知県名古屋市中区東桜1-13-2)



新たな歴史を歩む東京都美術館
この機に、日彫展へ出品しませんか？

東京都美術館は、日本における初めての公立美術館として大正15年に開館しました。それから80年余、この国の芸術文化の変遷を見つめ続け、本年大規模改修工事の完了に伴い、新たな変革期を迎えます。

私も日本彫刻会も平成22年、内閣総理大臣の認定を受けて公益社団法人化し、新たな歴史を歩み始めたところです。これまで、具象彫刻を主流として研鑽を重ね、先輩諸氏の理念・理論・技法を受け継いで、伝統を築いてまいりました。

そして、彫刻芸術の次世代への発展のため、より多くの人たちとともに、新たな歩みを進めてまいりたいと考えます。

そこで、**学生の方、日々彫刻の制作・研究の場を求めておられる方々**、ぜひ日彫展に出品し、本会にご参加ください。老若男女を問わずどなたでも応募いただけます。

新しく歴史のある美術館にて、あなた自身の作品を展示してみませんか。

□ 開催日程

右表は第42回日彫展開催の流れとなります。
開会から閉会まで12日間の会期となり、以前と同様です。開館時間については、総時間は変わりませんが開館閉館ともに30分早まり、午前9時30分から午後5時30分までとなります。

搬入日は4月7日(土)・8日(日)の2日で、7日が業者搬入日です。これまでと同様に搬入と並行して作品の写真撮影を7日～9日の3日間で行います。撮影を終えた作品から順次、鑑審査準備のためパークヤードに並べていきます。12日に鑑審査、14日(土)に西望賞審査を行い、15日(日)に陳列準備となります。

国立新美術館での陳列作業は1日のうちに行う慌ただししいものでしたが、今回展では17日(火)と、予備日として18日(水)の2日間を確保することができました。バックヤードの使用日数はこれまでと変わりありませんが、より無駄の無い日程となっております。

会期終了は4月30日(月)午後2時とし、同日の後に搬出作業に入ります。午後2時30分から個人搬出は可能とし、午後5時30分までにバックヤードに全作品を収めます。翌5月1日(火)正午までに搬出作業を完了する予定です。

日彫展開催同時期には、第8回日彫会新鋭選抜展が開催されます。また、日彫展開会後には、「公募団体ベストセレクション美術2012」展が開催され、本会からは能島 征二、瀬戸 剛、柴田 良貴、中原篤徳の諸先生方が作品を出展します。

□ 展示室及び陳列

東京都美術館での日彫展の会場は、地下3階のギャラリーA・Bと、地下2階のギャラリーCのスペースとなります。会期中の控え室はギャラリーBに隣接して設けられています。

床面積は延べ約1200㎡あり、国立新美術館に比べてやや広くなります。展示室の完成イメージ図によれば、赤褐色系のタイル調の床材と新たな照明設備による均一でムラの無い明かりの展示空間となっております。陳列台は、白っぽいグレーの鉄台が用意されるとのことです。

これまでの東京都美術館であったように、展示はA・B・Cの3部屋に分かれます。それぞれの空間を活かして、効果的な展示が立案できるよう、展覧会員陳列部を中心に検討し、立案を進めてまいります。



ギャラリー（旧彫塑室）の完成イメージ
(東京都美術館提供)

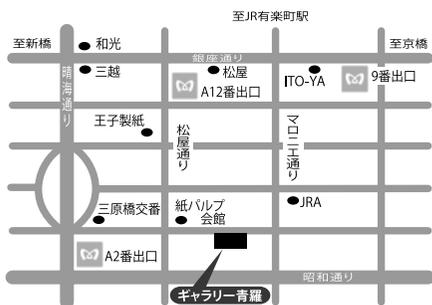
第8回日彫会新鋭選抜展

「形象×25」

開催のご案内

平成24年4月1日(日)から4月14日(土)まで、銀座の美術会館・ギャラリー青羅にて、日彫会の若手を中心とした展覧会を開催します。開催の折には、25名の出品者によるそれぞれの「形象」の在り方を、どうぞご覧くださいますようお願い致します。

伊庭 照美	植田 努	小関 良太
梶川俊一郎	加山 総子	川畑 祐徳
河村 佳則	木田 詩子	小西 徳泉
紺谷 武	白石 恵里	高石 麻代
高野 真悟	武本 大志	田丸 稔
徳安 和博	東 誠	廣川 政和
二塚佳永子	堀内 有子	前芝 武史
間島 博徳	三政 洋一	宮坂 慎司
安田 陽子		(出品者以上25名)



ギャラリー青羅(地図)
東京都中央区銀座3-10-19
美術家会館1階



橋本堅太郎先生

文化功労者顕彰祝賀会

平成23年度の文化功労者として、日本藝術院会員橋本堅太郎先生が顕彰され、先生をお祝いする会が日本彫刻会主催で平成23年12月4日（日）帝國ホテル富士の間に於いて開催されました。

今回は橋本先生の後援会などゆかりのある方々と合同の会として、幅広い業種から多くの方が出席され、盛大な会となりました。
先生ご夫妻がご登壇し、開宴しました。



本会理事長能島征二先生より主催者としてのご挨拶があり、これまでの橋本先生の功績と足跡のご紹介がありました。

続いて来賓祝辞では、日展理事長中山忠彦先生から橋本先生が日展理事長を9年に亘り勤められ、その間に日展百周年記念行事・日展会館の新築移転など数々の事業を成し遂げられたことなど、賛辞が述べられました。

東京藝術大学学長宮田亮平先生からは、先生の作風についての感想などを交えて、ご健康とさらなる進化をとのエールが送られました。

後援会を代表して三保恵一市長（二本松市）からは、二本松にゆかりの深い先生がこのような顕彰を受けられたことは、市の誇りであり、喜びであると述べられ、また先生を後から支え続けてこられた奥様の内助の功にも触れながら祝辞を締めくくられました。

清興は橋本先生ご夫妻の出会いに縁のある小澤純氏より、「先生の作風にあわせて選曲させていただきました」というメッセージの後、モーツァルト弦楽四重奏アイネ・クライネ・ナハトムジーク他一曲が披露されました。

その後日本彫刻会からの記念品として能島征二先生より旅行券の贈呈が行われ、引き続きご夫妻に花束が贈られました。お孫さんから花束を受け取られる時には先生の顔もほころび、会場も一段と穏やかな空気になりました。

橋本先生より「自分がはたして文化功労者にふさわしいかどうかと思うと改めて身の引き締まる思いであります。」とのお言葉があり、これ

からの制作に向けての決意と、多くの方々への感謝の言葉で締めくくられました。橋本先生からは出席された皆様に先生作のクローバーをかたどった銀製ペンダントヘッドが贈られました。

後援会会長斉藤元氏のご発声で、祝宴が始まり、先生ご夫妻は各テーブルを回られ、出席された多くの方と歓談の時間を過ごされました。

終始和やかな会も瞬く間に時間が過ぎ、本会常務理事の市村録郎先生のご発声による万歳三唱の後、常務理事山本眞輔先生のご挨拶で名残り惜しまれつつお開きとなりました。



第41回日彫展開催記録

平成23年6月22日(水)より7月4日(月)国立新美術館において第41回日彫展が開催されました。入場者数は8653名と、前回展より842名減となりました。なお内訳は左記の通り。

1、会期 平成23年6月22日(水)～7月4日(月)

2、会場 国立新美術館3階展示室3A

3、搬入総数及び陳列点数

搬入総数 357点
陳列点数 353点

(搬入内訳)

会員 262点 無鑑査 4点
会友 46点 応募 45点

4、入場者数 8653名

(内訳)

一般 123名

学生 18名(小学生を含む)

招待状 4634名

招待券 489名

出品者 1173名

日曜日無料 2004名

障害者手帳をお持ちの方 72名

付添者 38名 70歳以上、子供 102名

5、日彫展開催中の鑑賞支援活動

●彫刻研究会 6月22日(水) 約100名

●作家が語る鑑賞会(初日、最終日以外実施)

通算参加者 154名

●触れる彫刻鑑賞プロジェクト

・タッチツアー(希望者の申し込みにより実施)

通算参加者 8名

・盲学校鑑賞教室

6月24日(金)

東京都立久我山青光学園

小学生 9名 引率者 10名

7月1日(金)

東京都立葛飾盲学校

中学生 11名 引率者 9名

筑波大学附属視覚特別支援学校

高校生 17名 引率者 5名

6、地方展

第41回日彫北陸展

会期 平成23年7月8日(金)～7月12日(火)

会場 石川県立美術館

陳列点数 89点(内巡回作品63点)

入場者数 1558名

ワークショップ

「家族でつくるう、みんなの笑顔」

参加者 35名

第41回日彫東海展

会期 平成23年7月26日(火)～7月31日(日)

会場 愛知芸術文化センター愛知県美術館

陳列点数 116点(内巡回作品63点)

入場者数 2047名

「触れてみる彫刻展」 鑑賞参加者 2名

付添者 1名



彫刻研究会風景

第41回日彫展

受賞作品

西望賞

「ミルフィーユ」

二塚 佳永子



西望賞審査員 真室 佳武 先生

(美術評論家・東京都美術館長)

(審査講評)

3・11の大震災の影響が心配されたが、第41回日彫展は、本年6月22日から7月4日まで国立新美術館で開催された。展覧会は、作家にとっては日頃の研鑽の成果を世に問う晴れ舞台であり、鑑賞者にとっては美の女神が微笑み、芸術の恵みを享受する祝祭の場なのだ。多難なときだけに出品作家の方々には大変な苦労があったかと思う。日彫会の会員および関係者の方々に心から敬意を表したい。

西望賞の選考にあたっては、個々の作品を先入観なしに見るように努めた。しかし日本近代彫刻のアカデミズムの伝統を改めて感じる一方、新し

い現代的感覚と問題意識による変化の兆しも感じた。その結果、二塚佳代子の《ミルフィーユ》を西望賞に選んだ。一見弱々しく、見過ごされてしまいそうな作品である。自然なポーズで立つ若い女性を表現しており、石膏の白が基調をなす。髪や着衣には淡く暖か味のある色が施され、生き生きとした瑞々しさを感じさせる。石膏の素材の脆さをうまく表現に生かしている。この作品には、荒々しい現代社会にあつて、平穏な生活に欠かさない優しさや愛のメッセージを読み取ることが出来る。とくに大震災のような現実に向面したとき、人は何を考え、どう行動するか。作家にとつても課題であろう。この作品は一つの例証といえる。

他に、寺山三佳、廣川政和、銭亀賢治、岡本和弘、元田木山、堀内秀雄、阿部鉄太郎らの作品に注目したことを付け加えておきたい。

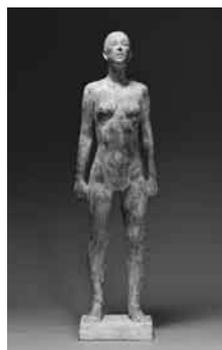
(真室 佳武)

審査員

《審査員長》能島 征二
 瀬戸 剛 石田 陽介 宇津 孝志
 親松 英治 勝野 眞言 木代 喜司
 時光 新吾 平戸 司郎 平原 孝明
 山崎 茂樹 磯尾 隆司 佐藤 敏明
 藤原健太郎 吉岡 徹

(以上15名)

日彫賞



加山 総子
「天を仰ぐ」



外山 良治
「立つ」



廣川 政和
「森から街へ」

優秀賞

元田木山 高石麻代 秦由怡子
 宮坂慎司 三政洋一

新人賞

市村成保 入江智佳 坂元絵美奈
 鈴木徹男 吉澤信弘

初めて彫刻展をみる方へIV

— 石彫について —

日本は木の文化が発達しており、石彫として優れた作品は他国と比較し殆ど無いと思います。わずかに宗教性を持った石仏や動物の作品等があります。西欧では有名なイタリアの彫刻家ミケランジェロのダビデ像などが思い浮かべられます。

かつてミケランジェロは優れた彫刻の材料を求める為、イタリアのカッラーラの山中に採掘の労働者として従事しました。彼は真っ白な巨大な大理石を前にして、作品の構想を練ったといわれています。



カッラーラの山とヴァラ橋

私は数年前に大理石彫刻研究の為、文化庁在外研究員としてイタリアのカッラーラ国立美術学校で研究する機会が与えられました。短い留学でしたが学んできたことも交えて簡単にお話しさせていただきます。



街角の大理石彫刻

カッラーラは、ルネッサンス文化の花開いた街フィレンツェより、列車で北西に向かって地中海沿いに2時間半ほど行った所にある田舎町です。良質な大理石を産出することで有名で、世界各国から常に180名以上の彫刻家があこがれを抱いてこの地を訪れているそうです。それは良質な素材が創造の人間を招き、また創造的本能を刺激せずにはいられないのでしょうか。ミケランジェロの数々の傑作も、吟味したカッラーラの大理石から生み出されました。数10年前からカッラーラ市主催のシンポジウムが開催され、各国から15名ほどの彫刻家が招待されて、街の一角で制作を行っています。会期が終われば制作された作品はカッラーラの街中に点在設置され、市民の中に自然と彫刻が浸透していきます。彫刻家にとっても魅力あるすばらしい街だと思います。

石の種類と質についてですが、石彫用材として良く知られる代表的なものやはり大理石です。彫刻に適している理由は、均質な硬さと、耐久・耐伸性が高く、且つ研磨すると非常に美しい光沢を出し、ほのぼのとした色と肌を持った魅力があるからです。質については、山肌で採掘された石は粗密であり脆く、逆に地中奥深くで採掘された石ほど高密度でありすべての力に強く、また極めて良質なものになると透明なものもあります。大理石の欠点としては長く野外に置くと風化し、摩滅して光沢を失います。

その他に用いられる石は、やや軟質な砂岩や、花崗岩のような硬度の高い石材も使われます。この石は風化しにくく野外彫刻の作品などに用いられます。

次に造り方ですが、石材に直接デッサンをして彫っていく直接法と、間接法とがあります。間接法には粘土で造られた原型を目測によって彫っていく方法と、イタリア彫刻伝統の星取り均等法があります。



石彫の制作風景

詳しくは次号で解説致します。

(宇治川久司)

日彫会選抜展（三越展）

平成23年5月25日（水）から31日（火）まで日本橋三越本店美術特選画廊で選抜者による展覧会が開催されました。

この企画は隔年で行われます。場所柄、画廊巡りの人や買い物の中で立ち寄る方など、美術に関心のある人ならだれでも気軽に立ち寄れる展覧会です。

すべて実材で出来ており、小品ながら、木彫・ブロンズ・乾漆・テラコッタと様々な素材の作風を味わうことができます。

また、出品者が常時控えており、作り方や、作品の意図などの質問に答えております。

作家の自由で冒険的な表現がみられ、美術館の展覧会とはまた違った雰囲気があります。キャリアの長い作家が多いので、小さい作品なりの見せ方を熟知した表現を楽しめる展覧会となりました。

毎回楽しみに来てくださる常連の方も多く、気楽でなごやかな雰囲気展覧会となりました。

慶 事

正会員 親松 英治 先生

第43回日展 内閣総理大臣賞受賞

平成23年10月

日本彫刻会総会

第83回通常総会報告

日時 平成24年1月24日（火）午後3時
場所 日展会館

出席者 47名 委任状 184名

正会員 323名 定款17条の定めるところにより総会成立。

その他の出席者 小笠原俊雄 税理士

事務職員 2名

互選により、能島征二理事長が議長となった。

議事録署名人 青山三郎氏・佐藤実氏を選出

議事

第一号議案 平成23年度事業報告承認の件

第二号議案 平成23年度決算報告承認の件

監査報告

監事栗山賀行氏により監査報告があった。

第三号議案 第42回日彫展開催に関する件

第四号議案 会員資格喪失の件

第五号議案 会員状況承認の件

第六号議案 役員改選の件

全議案とも異議なく承認された。

報告事項

1、平成24年度事業計画

2、平成24年度予算

3、委員改選

4、新運営委員および新無審査会員

5、第42回日彫展審査員

6、第42回日彫展会友推挙選考委員

7、第8回日彫会新鋭選抜展準備状況

第42回日彫展図録 掲載広告募集

現在、図録への広告の掲載を広く募っております。会員の皆様のお身近に掲載希望の会社、各種学校等がございましたら、事務所までご連絡下さいますようお願い致します。（係）

編集後記

◆日彫展が再び上野の東京都美術館に戻ることになりました。広報チラシも出来上がり、会報と共にお披露目いたします。国立新美術館よりもスペースも広がり内装の一新された会場に期待も膨らみます。

◆ページの都合で東京彫刻散歩は次回に繰り越されました。

◆「アートライブラリー」ではこれからもより充実した内容で皆様に情報を提供して参りたいと思えます。ホームページとともによろしくお願いたします。

◆編集に際しましてご協力いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

◆永年に亘り、日彫会事務職にお勤めいただきました矢山直子さんの後任として、長井菜美子さんが着任されました。

編集委員

加山 総子・一鉄田 徹・堀内 秀雄
前芝 武史・宮坂 慎司・吉岡 徹

日彫会報 No.68

平成24年2月20日発行